

## IEA石油市場レポートの概要(2016年5月12日公表)

(代表部仮訳のため、正確にはIEAのホームページを参照)

1. 原油価格は、ナイジェリア、ガーナ、カナダにおける予期しない供給減少が5月初旬までに150万バレルを越えたことを受けて、堅調であった。これは、4月中旬のドーハ生産国会合の結果を受けた弱気の心情を相殺する以上のものである。本レポート策定時点において、原油価格は2016年で最も高い価格に近づきつつあり、ブレント価格は47.00ドル/バレル、WTI価格は45.88ドル/バレルであった。
2. 世界の石油供給は、4月に25万バレル/日上昇し、9620万バレル/日となった。これは、OPECの生産増が非OPECの一層の生産減を上回った結果である。前年比の伸びについて、昨年(4月)時点では、350万バレル/日以上増加だったことに対して、今年4月時点では、5万バレル/日の伸びにとどまる。2016年のOPEC非加盟国の生産見通しは、80万バレル/日減少し、5680万バレル/日となる見込みである。
3. OPECの原油生産は、4月に33万バレル/日増加し、3276万バレル/日となった。これは、イランの30万バレル/日の供給急増及びイラクやUAEからの供給拡大が、クウェートやナイジェリアにおける供給減少を上回ったことによる。サウジの生産量は1020万バレル/日近くと安定していた。イランの供給量は、356万バレル/日に上昇し、制裁が強化される前の2011年11月のレベルに到達した。
4. 2016年第1四半期の世界の石油需要の伸びは上向きに改訂され、140万バレル/日となった。これは、インド、中国、そしてより驚くことに、ロシアにおける需要増加によるものである。2016年全体では、需要の伸びは約120万バレル/日となり、9590万バレル/日の需要に到達する見通しである。
5. 在庫の積み上がりはOECD諸国で緩まりつつある。2016年第1四半期において、在庫は2014年第4四半期以来最も緩やかな伸びを示しており、2月には1年で初めて減少した。3月に、OECD諸国の商業在庫は、わずかに110万バレル減少し、4月の暫定的なデータによれば、浮遊式貯蔵(タンカー等)の原油量は増大するとともに、在庫が増加したことを示唆している。
6. 2016年第2四半期の世界の精製量は、前年比で70万バレル/日多い7960万バレル/日と見込まれるが、これは予想された120万バレル/日の需要増大を下回るものである。2016年第1四半期の精製量は、20万バレル/日上向きに改訂され、7950万バレル/日となった。今年は、インド、サウジが世界の年ベースでの増加をリードする見込みである。